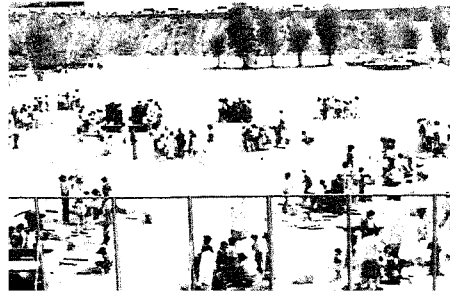


子どもたちにゆめを



五月晴れの五月十三日、約一四〇〇人の子ども達が都留文科大に集まり楽しい一日を過ごしました。午前中は人形劇の国、影絵の国、工作の国などの企画があり、午後からのみんなの広場ではおみこしづくりをしました。

家のおみこしや車やロボット……できあがったおみこしはみんながかついでパレード。力を合わせて作ったおみこしを囲んで子どもたちはとてもうれしそうでした。

今年の子どもまつりには、大学から児童文化研究部、桂川セツルメント、軽音楽部、吹奏楽部の企画参加があり、地域からは地域の



婦人の会、ガールスカウト、歌声サークル、スポーツ、幼年教育研究会のみなさんに参加していただきました。また当日の指導員として青年団の方々、谷村工業高校のみなさんのご協力を得ました。子どもをとりまく全てのの方々、お父さん、お母さん、地域の方々そして学生が創り上げてゆく子どもまつりの足がかりができたことをうれしく思います。

なお、第十一回子どもまつりにむけて月一回の定例事務局を設け学習会その他行っていきたいと思います。子どもまつり成功のため多くのみなさんの参加をお願いします。

(第十四回子どもまつり実行委員会)

高川山ハイキング

小形山子どもクラブ

佐藤 光 弘

五月三日、小形山子どもクラブ主催の高川山ハイキングが行なわれた。これは、四月の子どもクラブの総会で、いろいろ行事が決定され、それにもとづいて行なわれ



▲ 小形山にある高川山

たもので、育成会の役員の人たちの協力をえて行なわれた。

当日は、すみきった青空に雲一つない、絶好の登山日よりだった。稲村神社へ集合したばく達は、九時になるのを待って、早速出発した。高川山へはまだ一度も登ったことがなく、いつか登ってみたいと思っていたばくにとって、願ってもないチャンスだった。

しかし、行く手に待ちうけてい

たのは、険しい山道と暑い日ざしだった。山道がなだらかなうちはよかったが、険しくなるにつれて汗の量も増え足もつかれる。休みたくても、他の人達がどんどん登っていくので休めない。しかたなく、自分で自分をげましながら黙々と登った。もう頂上かな、と思うと、まだ向こうに、先頭の人達の行列が見える。やっと頂が見えてきた。早足で登りついた所にあったのは、雄大な景色だった。

三百六十度見わたしてみれば、富士山、三ツ峠、南アルプスまで見える。山と山との間には、豆つぶほどの家がぎっしり並んでいる。ふだん、目の前にあって、大きなあ、と思っていた九鬼山も、ここから見れば小さいものだ。カメラを手にしたばくは、それらの風景をパチパチととりまくった。今までのつかれなど、一ぺんにふつとんでしまった。

そこで昼食をとり、思うぞんぶん遊んだあと、今度はちがう道から山を下った。古宿にたどりついた時には、もう、足も棒のようになっていた。けれど、とても楽しい一日だった。また、ふだん話したり遊んだりできなかった人たちとも苦しい山のぼりを通して親しくなり、友情も深まった感じだ。これからもいろいろな行事をすることにより、友情はいつそう深まっていくであろう。